



「高知の授業づくり改革プランにおける『学力向上対策推進事業』授業づくり講座」今回は、朝倉中学校を会場とする第4回「授業研究会」（最終回）における学びの様子を紹介します。

【提案内容】 第2学年「一次関数」【授業者】岡林 英裕 教諭（高知市立朝倉中学校）～見方・考え方を単元で描く～

授業づくりの視点



【岡林教諭】

【単元の課題】
全国学力・学習状況調査の結果より、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに大きな課題が見られた。

【単元の課題を克服するために】
単元の終末にいくつもの活用する場面を入れるのではなく、身に付けさせたい知識・技能を活用させながら習得させる単元づくりに取り組みました。

授業リフレクション



【協議の視点】

- 1 グラフを用いて考察することのよさに気付くことが出来ていたか。
- 2 見方・考え方を働かせるような授業になっていたか。
※ 本時の見方・考え方は、グラフをどのように見取り、どのような方法で考え、判断し、問題解決をしていくか。
- 3 関数を指導していくうえで、大事にしなければならないことは何か。



【協議】

- 1 本時で、グラフのよさに気付くとはどういうことか⇒グラフを平行移動して考えることができること。
グラフで解決するだけではなく、表や式を用いた解決方法があれば、よりグラフの有効性に気付くことができた。
- 2 具体的な事象を解決するような文脈の課題設定であったので、事象の中から解決のために必要な着眼点を見出させる活動につながった。
- 3 単元では、身近な事象と常に接点をもたせた指導が必要である。関数が役立つ場面設定をする。未来を予測する場面設定を準備する。

学力向上総括専門官齊藤一弥先生 代案指導板書



グラフの有用性を実感する

＜グラフで表すことのよさ＞

- 1 場面の概観の把握⇒全体像が分かる。事象場面がどのように変化しているのか視覚的に分かる。
- 2 解決の見通しが見える⇒直感である程度の予想が付く。①解決の方法 ②およその値
- 3 処理を振り返る⇒解決してきた結果を振り返るのに有効。 ①間違いを振り返る。②場面を付け加える。
グラフでの表現を振り返り、解決した結果を批判的にみること。「本当にこれでいいのか」という見方や「条件を付け加えたときにどうなるのか」ということを考察する場面で、グラフが有効に働く。

定式化へのプロセスを描く

本時は中心課題1本を問題解決するという時間でなくてもよい。グラフの有用性を実感するためにも問題解決をしていくプロセスそのものを学ぶ（方法知）という一時間にする。⇒【板書中央】

【参会者の感想】

- ・ 一次関数の活用は、どのように授業を進めていくのか難しさを感じていたので、とても参考になりました。グラフのよさを生徒が自然に実感できるような授業づくり、単元づくりをしていきたいと思いました。
- ・ 代案指導の授業をやってみてと思いました。生徒と授業を作ることや、これまでに学んだものと結び付けながら新しい課題を解決する面白さを感じました。
- ・ 問題を解決するプロセスを子どもと共有しながら進めていくことの大切さを改めて感じました。解決の道筋を子どもから出させるようにすることを意識していきたいです。
- ・ 「一つ一つの学びのプロセスが大事。」見方・考え方を働かせた授業づくりは、どの教科でも共通しているなど感じました。また、授業で大事にしたいことをはっきりさせ、生徒の学びを中心とした授業づくりをしていきたいと思いました。